



なぜ英語は大切なのか

8 月 31 日(木)の始業式でお話したとおり、近年は英語の重要性が**加速度的に**増してきています。その主たる理由を考えてみると…

- ① 国際化・グローバル化が進展する現代では、英語は英語を母語とする人の言語というよりも、それぞれの母語を持ちながらも異なる国の人とコミュニケーションするための手段＝**国際共通語**になっている。
- ② よって、キレイな **Queen's English** が話せなくても（母語訛りがあっても）、英語で意思疎通できるぐらいのレベルは必要。
- ③ アジア諸国は英語が出来る人がいっぱい！ このままでは日本はガラパゴスになってしまう!?
- ④ 日本人にとって、英語は意識して勉強しないと出来るようにはならない教科なので、その人の学力や努力の度合いを測るのに適している。
- ⑤ 大学や専門学校、その先の実社会における仕事の現場では、英文を読まなければならない場面が今後いっそう増えていく。
- ⑥ 近年言われるようになった「**論理的な思考**」をするために、実は英語はもともと適した言語である。

これからの時代に対応した人材を育成するために現在進んでいる大学入試改革のキーワードの一つに、「**論理的思考力**」があります。論理的思考力とは、頭の中で**言葉やイメージを効率よく構成**したうえで、それを文章や言葉で**明快に表現**する能力です。実はこの作業に、英語はもともと適している言語なのです。下記を見てください。

It is foolish to think that smoking has little to do with cancer.

(喫煙がガンとほとんど関係が無いと思うのは、愚かなことです)

カッコ内の日本語のほうを読んでみると（または音声で聞いてみると）「喫煙がガンとほとんど関係が無い…」と、途中の段階までは「喫煙とガンは関係ないのだ」とも理解できてしまいます。最後まで聞かないと、両者が無関係と思うことが**愚かなのか良いことなのか**分からない。

しかし英語の場合は、“It is foolish to …” とまず「愚かなことだ」と宣言したあとに、具体的に愚かな行為の事例を説明していく。何となればカンマをつけて、複数の事例を列挙することもできる。

実はこれは、大学入試などで課される**小論文**の書き方や論理構成とも似ているのです。

(例…私の意見は◎◎だ。その理由はAであり、Bであり、Cである。ゆえに私の意見は◎◎だ。)

もちろん、英語ができれば論文がうまく書けるというわけではありません。基本は、しっかりと知識・関心を広げること。自分の頭で考えること。良質な本を読むこと。日頃からきちんとした日本語で話し、書くことです。

【速報】平成 31 年度入試（いまの 2 年生）茨城大学工学部における入試の変更点

※推薦入試の出願要件（以下の①②③のすべてを満たすこと）

- ① 評定平均値が一定値以上であること（学科により 3.7～4.0）
- ② 「物理」「数学Ⅲ」を履修していること
- ③ 英語の外部検定試験で一定以上のスコアを有していること



配点	英検	英検 CSE2.0	GTEC for STUDENTS	GTEC CBT
100	準 1 級以上	2300 点以上	700 点以上	1010 点以上
90	2 級以上	1980 点以上	580 点以上	820 点以上
80	—	1800 点以上	500 点以上	720 点以上
70	—	1700 点以上	480 点以上	690 点以上
50	—	1550 点以上	470 点以上	680 点以上
25	—	1400 点以上	450 点以上	640 点以上

英語で上記の条件を満たさない者は出願すらできません。また、茨大の入試担当の先生は、英語の比重が高い(100点)ので、25～50 点のスコアではまず受からないのでは…とおっしゃっています。

上級学校の試験や就職試験において、**英語の外部試験**のスコアを有していることが出願の条件や加点の対象になる流れは、加速度的に増えていきます。気付いてからでは間に合いません。まずは英語の学習に励んだうえで、**英検等を積極的に受験**してください。